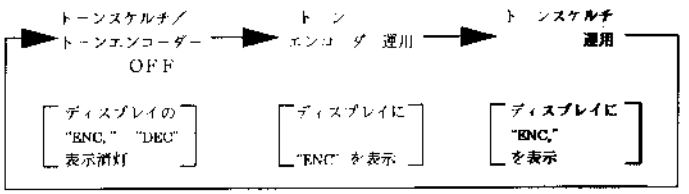
使用方法

(1) FT−270／H, 770／H, 2700／Hの場合

1. 始めにトーン周波数の設定を行います。
2. パネル面の T.SET スイッチを押すと，ディスプレイの運用周波数表示がトーン周波数表示に変わると共に，点滅する“ENC,” “DEC” 表示が現れます。
3. “ENC,” “DEC” 表示が点滅している間（約7秒間）にパネル面の“メインダイアル”または“MHz／M CH” スイッチ，あるいはマイクロホンの UP DWN スイッチを操作して希望のトーン周波数を設定し，再び T.SET スイッチを押して運用周波数表示に戻します。
4. 次に，パネル面の TONE スイッチを押して希望する運用状態（トーンスケルチ運用またはトーンエンコーダー運用）を選択します。この TONE スイッチは押すごとに



の動作を繰り返しますので，希望する運用状態になる様にします。

☆ トーンエンコーダ運用およびトーンスケルチ運用中にメモリーセット操作を行うと，運用周波数と一緒にトーン周波数および運用状態もメモリーできます。詳しくは，お手持ちのトランシーバーの取扱説明書をご覧ください。

(2) FT−3700／H, 3800／H, 3900／Hの場合

1. 始めに本体上面部（FT-3800／H, 3900／H）または本体底面部（FT-3700／H）にあるゴムキャップを外し，中のディプスイッチを希望するトーン周波数と運用状態（トーンスケルチ運用またはトーンエンコーダ運用）になる様に表1を参考にドライバーの先端などを利用して設定し，再びゴムキャップを被せます。
2. パネル面の TONE スイッチを押すと，ディスプレイに “TONE” 表示が現れ，ディップスイッチで設定したトーン周波数でのトーンスケルチ運用（またはトーンエンコーダー運用）になります。
3. 再び TONE スイッチを押すと，ディスプレイの “TONE” 表示が消灯して，トーンスケルチ運用（またはトーンエンコーダー運用）は解除になります。

☆ トーンエンコーダー運用およびトーンスケルチ運用中にメモリーセット操作を行うと，運用周波数と一緒にトーン周波数および運用状態もメモリーできます。

詳しくは，お手持ちのトランシーバーの取扱説明書をご覧ください。

FT−4700／H, FT−736, FT−767GX／SX, FT−655／M／S での使用方法は各トランシーバーの取扱説明書をご覧ください。

調整方法

FTS-8は各種の測定器を使用して調整し，標準セットで検査の上出荷しておりますので調整の必要はありませんが，万一，トーンレベルの調整が必要な場合にはFTS-8のVR1で行います。

FTS-8 (DIP SWITCH PROGRAMMING)

FREQ	SWITCH NUMBER * 1	2	3	4	5	6
67.0Hz	O	−	−	−	−	−
71.9	−	O	−	−	−	−
74.4	−	−	O	−	−	O
77.0	O	O	−	−	−	−
79.7	−	O	O	−	−	O
82.5	−	−	O	−	−	−
85.4	−	−	−	O	−	O
88.5	O	−	O	−	−	−
91.5	−	O	−	O	−	O
94.8	−	O	O	−	−	−
100.0	O	O	O	−	−	−
103.5	−	−	−	O	−	−
107.2	O	−	−	O	−	−
110.9	−	O	−	O	−	−
114.8	O	O	−	O	−	−
118.8	−	−	O	O	−	−
123.0	O	−	O	O	−	−
127.3	−	O	O	O	−	−
131.8	O	O	O	O	−	−

FREQ	SWITCH NUMBER * 1	2	3	4	5	6
136.5Hz	−	−	−	−	O	−
141.3	O	−	−	−	O	−
146.2	−	O	−	−	O	−
151.4	O	O	−	−	O	−
156.7	−	−	O	−	O	−
162.2	O	−	O	−	O	−
167.9	−	O	O	−	O	−
173.8	O	O	O	−	O	−
179.9	−	−	−	O	O	−
186.2	O	−	−	O	O	−
192.8	−	O	−	O	O	−
203.5	O	O	−	O	O	−
210.7	−	−	O	O	O	−
218.1	O	−	O	O	O	−
225.7	−	O	O	O	O	−
233.6	O	O	O	O	O	−
241.8	−	−	−	−	−	O
250.3	O	−	−	−	−	O

* DIP SW O = ON

DIP SW NO⑦ ON=TONE SQUELCH
OFF=ENCODER ONLY

（表1）